

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 27日

事業所名 シルビアンスポレクセンター真地

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	0	着替えなどは少ない部屋を工夫して行っている。	クールダウンできる部屋を増やしたい。
	2	職員の配置数は適切である	7	1	0		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	3	1		現在の利用者に関しては大きな障壁は事業所内にはないがトイレの戸などは引き戸のほうが利用者が使いやすいかもしれない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	5	0	パート職員と常勤職員での情報共有が不足している。	パート職員とも今後密な共有ができるようにしたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2	1		今回保護者評価を職員へ内容を共有し、参考にして業務改善に努めたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	3	0	毎年ホームページで公開している。	公開を知らない職員と保護者もいたため、会報でお知らせを入れるようにする。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	5	2		今後検討したい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	2	0	定期的に必要に応じて社内勉強会(研修)を行っている	しかし、外部研修の機会が少ない。今後も定期的に社内研修を行うと共に、外部研修の機会を確保できるよう努める。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	2	0	定期的に子どもと保護者の課題を分析するモニタリング会議を開催し、次の計画に向けて議論を行なっている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	3	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	5	0	月初めに会議を行ない、児童から活動リクエストを聞き参考にしている。	パート職員からの意見は不足している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	3	0	季節を意識して行事・活動を行っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1	7	0	児童に応じて休日は学校の宿題も行う時間や、夏休みはプール活動している。	課題を明確化し、それぞれの日に応じて出来る事を考えより充実した支援できるように努めたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	3	0	どの利用者にも集団と個別の活動につながる計画をたてている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	3	1		支援後に話すことが多いので支援前にも打合せを増やす。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	0		毎日短時間でも振り返りと気付きを共有する機会を設けたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	2	0	その日で記録するようにしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	3	0		見直し内容を把握できていない職員がいるため情報共有、特に更新の情報の共有を行う。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	3	5	0		足りていないこともあるので基本活動を見直す。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	2	0	児発管が基本参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	1	0	保護者と学校どちらとも情報共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	6	1		現在そういった対象はいないが今後必要であれば整える
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	4	0	今季小学一年の利用者が利用。その際は児童発達支援事業所と度々情報共有を行った。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	4	1		今年度卒業する方に対して新しい事業所でスムーズに移行できるように行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4	3		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	1	7	近隣の公園や児童館で地域の子どものと遊ぶ機会も稀にある。	定期的に計画して地域の子どものと交流が行なえる機会を設けられるよう検討したい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	4	4		現在参加なし。今後検討したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	0	普段から送迎の際に保護者との雑談を通して課題や状況把握に努めている。継続したい。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	3	2		ペアレントトレーニングの方法等職員間で勉強会を行ない、実施して行けるようにしたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	3	0		利用者には契約時には説明を行なっているが職員は理解できていないこともある。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	3	0		メール、ラインも活用し随時行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	2	6		コロナ前は活発に行っていたが、今年度全くなかった。今後場を作れるように計画する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	3	0	細かなことでも随時、連絡、申し送りしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1	0	通信を活用し毎月活動を紹介をしている。行事予定を前もってお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している	8	0	0	利用者の意向を尊重して写真がNGな方は写さないこともある。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	0	利用児童のネガティブなことに関して本人に悟られないように保護者に申し送りしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3	5		地域交流の場を今後検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	6	0		マニュアル策定しているが、職員・保護者への周知が不足。周知方法を見直し周知を行なう。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	2	0	訓練を定期的にゲリラ的に行なっている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	2	0	虐待防止委員会を設け、事業所内でも徹底して意識付けしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	6	0	拘束はしてないが計画書に記載はない(拘束必要の方が現在いない)	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	5	0		該当児がいないが、必要に応じて対応策は策定する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	3	0		